

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 佐藤 則之
 編集協力 市町村教育委員会連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校長協議会



『 制約の中で思考を磨く 』

福島県教育庁南会津教育事務所長
 佐藤 則之

私たちは、多くの制約の中で生活し、解決すべきものがあれば、どうかしようと思ひ、解決策を探ります。「制約があるから…」といつても過言ではありません。

学習活動の中で、解決すべき課題に向けて取り組む時、そこに意味のある制約（時間、条件、量、内容等）が明確に示されていれば、子どもたちの思考は促されると考へます。授業の中で教師が少し意識するだけで、日々の学習活動での子どもたちの思考の広がりや深まりは違つてきます。

今、各校では学力向上のために、様々な取組がなされ、授業での「個に応じた指導」は当たり前になっています。では、家庭学習ではどうでしょうか。子どもたちの教科に対する興味・関心や、得意・不得意といった点を考慮し、個に応じた家庭学習への取組がなされているでしょうか。小学校ではドリル的な課題が多く、中学校では授

業中にこなさきれなかつた問題を家庭学習の課題にするという話を聞くことがあります。

域内のある小学校では、「家庭学習計画タイム」を下校までの間に設け、児童一人一人が家庭学習で取り組む内容を決めています。また、「家庭学習メニュー」を作成し児童に示すことにより、児童自らの思考と判断の場を家庭学習にも取り入れている学校もあります。

学力向上において、日々の授業の積み重ねを大切にするように、家庭学習にも「個に応じた」と「意味のある制約」という二つの視点を加えて、日々取り組むことにより、今までとは違う新たな家庭学習の形が見えてくると思つています。

今年度、県教育委員会では「家庭学習スタンダード」を策定予定です。日々の家庭学習であればこそ、意図的に取り組ませ、学力向上につなげたいものです。



『 疾風に勁草を知る 』

南会津郡小中学校長協議会長
 川島 敬章

東日本大震災を機に、東北地方の人柄として、我慢強さや辛抱強さがクローズアップされました。東北という風土が、その人間形成に及ぼしていることは確かであると思ひます。この南会津も四季がはっきりしており、特に、厳しい冬を乗り越えるためには「我慢強さ、忍耐」が否応なしに私たちに押し迫り、大自然に畏敬の念を抱かずにはおられません。その厳しい冬を乗り越えるからこそ、春の到来が待ち遠しく、輝かしく感じます。

これからの社会は、不確定な要素が多く、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるためには、ダーウィンの「最後に生き残るものは、強いものでも賢いものでもない。環境に適応したものである。」という言葉が示唆に富み、適応能力の育成が大切になってくると考へます。強靱な精神力や身体、生き延びるための知識や知恵も必要ですが、生き抜くためには、疾風になび環境に適応で

きる、しなやかな感性が必要であると思ひます。そのしなやかな感性は、多様な読書や、子どもたちの遊び、芸術、総合学習等で養われ、豊かな体験に裏打ちされた想像力（創造力）が大切になってくると考へます。

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力として「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という3つのスキーマが示されました。これからは、南会津の豊かな自然や伝統文化等の地域資源をどのように活かすか、まさにカリキュラム・マネジメント力が問われてきます。南会津で培われるしなやかな感性が、豊かな人間性の涵養につながると考へます。

福島県は、未曾有の原発事故により、復興は道半ばです。私たちは、未だ風評被害や記憶の風化等の疾風にさらされています。学校は復興の拠点という自覚のもと、南会津の風土を生かし、しなやかでたくましく生きる子どもの育成を図ることが大切であると思ひます。

南会津夢教育2017
～ 南会津の風土を踏まえ 一人一人が夢をかなえられる教育を目指して ～

南会津がつむぐ 新たな学校教育！

確かな学力

県教育委員会ではこの春、本県の教育課題に対応するための教育施策を示す「頑張る学校応援プラン」を策定しました。その中の主要施策1「学力向上に責任を果たす」では、教員が身に付けるべき授業のポイント等を示した「授業スタンダード」を全ての小中学校に配付し、授業の質的向上を目指しています。

域内では、5月16日(火)に第1回学力向上担当者等研修会が開催されました。研修会では、事業の説明や講義の後に、「授業スタンダード」の活用方法について班別の協議を行いました。先生方の日々の授業づくりや授業の振り返りでの活用、校内研修での活用等、参考となる様々なアイデアが出されました。



＜意見交換する参加者＞

この「授業スタンダード」を自校で積極的に活用しながら、日々の授業充実と先生方の指導力向上を図っていただきたいと思ひます。

豊かなこころ

「特別の教科 道徳」の全面实施に向け、各小中学校では新しい学習指導要領の趣旨を先取りした研究や授業を行うなど、小学校では来年度、中学校では平成31年度へ向けての準備が進められています。平成28年11月18日に文部科学大臣より発信された、「いじめに正面から向き合う『考え、議論する道徳』への転換に向けて」の中では、「道徳の特別の教科化の大きなきっかけは、いじめに関する痛ましい事案でした。(中略)現実のいじめ問題に対応できる資質・能力を育むためには、『あなたならどうするか』を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく『考え、議論する道徳』へと転換することが求められます」とあります。

本年度の道徳教育推進校、檜枝岐村立檜枝岐小中学校では、「自ら伸びようとする児童生徒の育成～『つなぐ』をキーワードにした考え議論する道徳科を通して～」を研究主題として、福島大学総合教育研究センター特任教授の丹野学先生をお招きして、研究を推進しているところです。その成果の一部を10月6日(金)に地区別推進協議会で発表しますので、ぜひ参観し、自校の道徳教育の更なる充実に生かしていただきたいと思ひます。

健やかな体

健康な体をつくる土台には、「食育」があります。各校においては、教育活動全体でそれぞれに工夫された食育が推進されています。

平成28年度朝食調べ(11月調査)結果

Table with 3 columns: Item, Prefecture Average, Naniwa District Average. Rows include Breakfast intake rate, eating vegetables, and eating soup.

この調査結果から、南会津の子どもたちの食の充実を知ることができます。じいちゃんが育てた米、ばあちゃんが作っている野菜が食卓にあがる家庭が多いはずです。

南会津には、15歳で親元を離れる子どもたちもいます。そんなことを考えると、0歳から15歳までの食事がとても大事に思えてきます。「朝ご飯の大切さ」「バランスよい食事をとる心がまえ」「簡単な食事を自分で作る力」などは、幼少時代から少しずつ身につけさせたいことです。

今後も、学校給食を中心とした活動で、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育てていきましょう。



特別支援教育の充実

5月25日(木)に「第1回特別支援教育体制促進協議会」、6月2日(金)に「教育支援協議会」を開催しました。県教育庁特別支援教育課と各町村教育委員会、学校関係、保健福祉部等の関係機関が一堂に集い、乳幼児から成人に至るまでの一貫した支援体制整備とその充実に向けた具体的な取組や課題について情報交換がなされました。南会津の子どもたち一人一人のニーズに応じた教育を実現するためには、学校、保護者、各関係機関が手を取り合い、「チーム」となって連携していくことが必要不可欠であると考えます。本事務所では、今年度もインクルーシブ教育システム推進事業として園内、校内等における相談支援、研修支援を進めて参りますので、是非ご活用ください。

南会津のよさを十分に生かし、「地域で共に学び、共に生きる教育」を目指してチームで取り組んでいきましょう。



＜教育支援協議会＞